第 2014-47 号

恵みと真理のニュース

2014 年 11 月の四次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養 5 洞 458-5 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

［証］

私が８０代の半ばになると　若い時にもっと主のため献身と奉仕しなかったことが悔いが残りました。しかしの肉体の服を脱ぐ日、天国に行って永遠な祝福を受ける事を考えると喜ぶ限りです。

ハレルヤ！私に限りない恵みと愛を与えて下さり今日証するように導いてくださる神様に感謝します。
実家は祖母、母、叔父家族みんなカトリックを信じて父と兄弟は特に宗教を人事がなかった不信者でした。そして結婚した婚家はすべての家族が仏教と様々な神を信じる家庭でした。さらに旦那は若いにも関わらず仏像その前でお経を唱えました。
姑は私にも婚家の風習の通りに共に寺に通い偶像崇拝をするように勧めました。まだイエス様を信じる前でしたが偶像崇拝をするのが嫌いで断りました。
当時公務員だった旦那は急にアンドンからソウルで転勤するようになりました。ソウルに引越しする状況でなぜか分からないがアンヤンに心が向かってアンヤンで引越しました。知りあいもいなくて生きる事が楽しくない時に熱心に教会に通う方を見て私も教会に通ってみようと思いました。そうするうちにイエス様を先に信じ始めた姉が教会の執事になっており、デクで高校に通う長男も友達をついて熱心に信仰生活をしながら休みの日に家に帰って来ると偶像崇拝をする親に福音を伝え教会を通うように勧めました。福音と教会生活に関心を持った私は旦那に私達ももう偶像崇拝はやめて教会に通ってみようと説得しました。そして、旦那と共に教会に通い始めました。どころが初めて通った教会が気に入らなかったです。なぜなら私達は救いの恵みと真理を確実に知りたいし、聖書の教えを知りたかったですが牧師の説教はいつも国と政治との話ばかりだったからです。御言葉の恵が乾いた状態で何週間通って同じアーパトで住む方に導かれソウルの一つの教会に移しました。
そうするうちに恵みと真理教会がアンヤンで建てられたことを知り教会を変えて恵みと真理教会の聖徒になりました。はじめ御言葉に恵まれ感動を受け私達の信仰が成長しました。私の子供達も神様の愛を受けながら育ちました。熱心に偶像崇拝をした姑も私達をついてイエス様を受け入れ９７歳で天国に召されました。
不信の家庭でひどく偶像崇拝をした家族が長路、勧士、伝導士、執事、聖徒の尊い職分を受け神様と教会を仕えています。当会長の牧師の説教の糧食で裕福で家で賛美が歌われるようになり神様の摂理と恵みに感謝するべきです。当会長牧師の説教の御言葉を聞くたびに聖書の御言葉を御言葉で解けて教訓し、恵みと真理で満たして単語一つ一つさえも真心で説教し聖徒を祝福する姿を見ると牧師が尊敬して愛せざるを得ないです。
私はもう８０代の 半ばになると以前を振り替えてみると神様が与えてくださった恵みと愛が数え切れないほど多いです。家族がアンヤンに引越したことから偶然ではなく神様の恵みと摂理でした。人生の中ですべてが 万事が益となるように共に働いてついに善になり時によって恵みを与え、家族がよく生きるようになりました。言葉で全の恵みを書けないことが残念で、神様に限りなく感謝を捧げます。70 代まで健康な体で仕え奉仕することに熱心でした。年月が重なるにつれて体も弱くなり 80 代になると食欲も低下し膝も痛くて気力も落ちる事を実感しています。それでもっと神様を知らなくて信じなかったことが気の毒で若い時に教会と聖徒を仕え伝道することに最善を尽くさなかったことが後悔に残ります。その反面私が死ぬ時に主が備えてくださた天国で神様に会って永遠に祝福を受ける事を考えると嬉しい限りです。それで今日ももっと祈り聖書を読み感謝の賛美を捧げながら毎日を過ごします。
最近までノーベル文学賞を受けた日本の有名なクリスチャン作家（ 三浦凌子）が書いた 70 冊を全部読んで、最近はまた日本の有名なクリスチャンの思想化（内村鑑三）の(内村鑑三 著作集)を読み楽しい老年を過ごしています。
何日前、喜んで感謝な知らせがありました。神様を熱心に信じる孫がアメリカの州立大学の大学院の助手で勉強していたが博士学位を受けた話です。私と家族の祈りを聞いてくださり孫たちにまでも祝福を与える神様に感謝を捧げ栄光を捧げます。今、この証を書きながらも心では賛美歌 292 章の賛美を歌ています。
“私の故郷に行く道が見るのだ。人生の往く終わりの道を走って地上での苦労を止めとよ言うので私の前に残った一ただあの道、主イエスが予備したあの新しい家は永遠に永遠に輝いている家、そこで聖徒達の楽しい歌で愛の救い主を賛美する、一生涯行なった事を振り返ってみると、しなかった事がこ多くて恥ずかしい。神様の愛が私を赦してくださり生命の冠をくださる。”
いつ主が私を呼ぶか分からないがその日まで熱心に礼拝を捧げながら教区と区域の聖徒のため祈りながら主に召される時、喜びと感謝で賛美しながら神様の所に向かいます。ハレルヤ！！

［信仰コラム］　心配を賢明に対処する方法

何事も思い煩ってはならない。ただ、事ごとに、感謝をもって祈と願いとをささげ、あなたがたの求めるところを神に申し上げるがよい。そうすれば……(ピリピ人への手紙, 4:6~7)

信仰状態を測定する基準の中で一つは心配を対処する態度です. 絶えず気づかうので平安と喜びのない信者がいるかと言えば, 心配が心に根付く前に適切に取り計いする信者がいます. 心配を賢明に対処する方法に対して聖書に記録された教訓たちをよく見ます.

第一, 生きている人には心配があることが当たり前だという認識を持たなければなりません. 心配を賢明に対処する人はいても心配のない人はこの世の中にないです. 大変肝が小さくて鋭敏ですぎるほど心配)をたくさん作る人がいる一方に性格が大まかでかなりの問題は心配しない人がいます. 心配は誰にもある. 心配があるというのはまだ私がこの地に住んでいるという証拠だ.″ と思うのが心配に対する基本的な対処方法です.

第二, イエス様が教訓なさった ' 気づかってはいけない理由たち' を念頭に留めおかなければなりません. その教訓がマタイによる福音書, 6 章に記録されています. イエス様がそらの鳥と野のゆりを比喩しながら ″ **あなたがたに、それ以上よくしてくださらないはずがあろうか。**″と強調しました. 神様は神様を ' 父' と呼ぶ信者たちを不信者とは違い待偶するということが信者たちが気づかってはいけない理由です. イスラエル民は 40 年荒野生活で神様を逆った理由で懲罰を受けて死んだ人々は多かったが飢えてぼろを着て死んだ人は一人もいないです. 神様は神様を ' 父' と呼ぶ信者たちを不信者とは違い待偶するということが信者たちが気づかってはいけない理由です. また気づかうのが問題解決に何らの役に立たないという実はも気づかってはいけない理由です. イエス様は背が伸びないことを気づかうと背の伸びる事がないという厳然な事実を例であげて気づかうことでは問題解決に何らの役に立たないと指摘しました.

第三, 心配を生産しないようにしなければなりません. イエス様は ″だから明日の仕事のために気づかわない明日の仕事は明日気づかうことでありたいていその日の苦しさはその日に足りるのだと.″ このお話で心配に関する教訓を済ましました. この句節の一番適切な翻訳は ″明日に対して気づかわないこと″です. 未来の事を思わないことはクリスチャンの信仰姿勢ではないです. それは無責任な態度です. イエス様が禁ずることは未来に対する計画と分別ではなく未来に対する心配です. 宴心と欲深で行動して生ずる心配は自業自得です. 信者たちは神様のお許し願えることを調べて神様の雲の柱, 火の柱の止めることを無視して先立って進む事がないようにしなければなりません. 深思熟考して決めて未来に対する計画と準備をすれば心配を生産しなくなります.

第四, 心配の解決のために神様が関与するようにしなければなりません. 心配を一人で背負って解決しようと思えば心配が心の中に深く掘り下げます. 神様を私たちの心配の解決のために介入して関与するようにするためには先には神様の国と彼の義に適当な生活をしなければなりません. 神様まず, 神様第一の姿勢に生活しなさいという意味です. そんなにすれば神様が心配に介入して関与して神様の時に神様の方法で解決します. 助ける手助けを突き出します. また心配を祈祷にして気づかうその時間にむしろ祈らなければなりません. 神様に祈りながら感謝することで申し上げて心配を任せる人には神様がくださる平安が臨みます. 神様のくださる平安は我が腹の中に起きる心配の風波を即時に寝かせることができます. 心配を祈祷と懇求で神様に任せてからは理解を超越する奇妙な神様の平安が心と考えに席を取るようになります.

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム ‘緑の牧場、清い川’ 本の語り中」

挑戦に対して胆大に応戦しなさい

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

教会へ来て礼拝に参加した人々の中には自ら尋ねて来た場合と他人の引導を受けて来た場合があります．その場合がどうでも皆その日から一生の間に信仰生活をするようになったらその数がおびただしいだろう．しかし持続的に信仰生活をする人より落伍される人の数がもっと多いです．そのようになる理由といっしょに適切な処方に対して今日の聖書の本文を通じてよく見ます．**“エフライムの人々は武装し、弓を携えたが、戦いの日に引き返した。彼らは神の契約を守らず、そのおきてにしたがって歩むことを拒み、神がなされた事と、彼らに示されたくすしきみわざとを忘れた。”**と本文に記録されました．信者たちは天国に入るその日までは霊的戦争を経験することを覚悟しなければなりません．サタンが試験と患難と逼迫を使って信者たちを攻撃するからです．

第一、信仰をあきらめる人々が誰なのかをよく見ます．

逼迫と患難の予兆を見て信仰をあきらめてしまう人々がいます．不朽の名作で指折り数えられるゾンボンヨンが書いた“天路歴程”は聖書を除き一番多い言語に翻訳されて一番広くそして一番多く読まれる本の中に一つです．この本に見ればこんな内容があります．多くの巡礼者たちが罪悪世の中で天の城を向かって行く途中に“小胆”と “不信”という者が大声を出しながら丘を走って下ることを見るようになりました．ますます身近に近付く彼らがしきりに叫ぶ音は “み使いたちが駆けて来る．” ますますその音を聞いた多くの巡礼者たちが恐ろしがって天の城に行く道をあきらめて滅亡の都市に向けて帰る場面があります．彼らのようにクリスチャンになろうと出てから家族や周り人々の拒否と逼迫を恐れてまっすぐに退いてしまう人々がいます．一度も応戦して見なくて恐れによって退いてしまいます．また患難と逼迫を覚悟するが長く堪えることができない人々もいてよほど長年の歳月を耐えながら争ってから退く人々がいます．彼らは挑戦に対して喜んで応戦するが苦難が易しく終わらなければ心が揺れます．患難と逼迫だけではなく世の中の誘惑まで力を合わせれば結局けんかをあきらめて退きます．

第二、信仰をあきらめて退く人々に対して私たちが切なさを禁ずることができない理由をよく見ます．

本文には “**戦いの日に引き返した**という事実を置いて歎息しました．エフライム支派はヨシュアのような将軍を排出した支派です．ヨシュアはイスラエル子孫たちをガナアン地で導く任務を立派に遂行しました．このような先祖があったエフライム子孫たちが戦争で退いたから恥かしくて不幸な事です．ヨシュアはイエス様の模型で影でもあります．だからエフライム子孫がヨシュアに係わったように聖徒たちはイエス様と不可分の関係にあります．いわゆるイエスキリストを信じる人と呼ばれた人々が自分の信仰を捨てて退くということは衝撃的な事に違いないです．戦争の日に当然に争って勝利を得なければならないエフライム子孫たちが退いてしまったように，聖徒の班列に立って天の城を向けて大胆に進まなければならない人々が世の中と悪魔の脅威と攻撃を受ける時に退いてしまったら恥かしくて不幸な事です．エフライム子孫たちは “兵器を取り揃えて弓を持った軍事たち”でした．戦争の日こそ兵器と弓を使う格好よい機会の日です．ところでこのような機会を投げ捨てて退いたからはなはだしく不幸な事です．

信仰を守るためのけんかは神様を向けた信頼と忠誠を現わして見える大好きな機会です．信仰を守るためのけんかは神様の愛と権能を深く体験することができる機会です．信仰を守るためのけんかは他人に信仰で行う見習うのを残す機会になります．ヘブル人への手紙,11 章に登場する人物たちは逼迫と苦難を乗り越えて来る世代に立派な亀鑑を残しました．**“彼らは信仰によって、国々を征服し、義を行い、約束のものを受け、ししの口をふさぎ、火の勢いを消し、つるぎの刃をのがれ、弱いものは強くされ、戦いの勇者となり、他国の軍を退かせた。女たちは、その死者たちをよみがえらさせてもらった。ほかの者は、更にまさったいのちによみがえるために、拷問の苦しみに甘んじ、放免されることを願わなかった。”（ヘブル人への手紙，11:33～35)**と言いました．

第三、“エフライム子孫”がどうして戦争の日に退いたのかその原因をよく見ます．

“彼らは神の契約を守らず、そのおきてにしたがって歩むことを拒み、神がなされた事と、彼らに示されたくすしきみわざとを忘れた。”(詩篇，78:10,11)と記録されています．彼らが戦争の日に退いた第一原因は，彼らが神様の口約束を守らなかったからだと言いました．私たちに試験と患難と誘惑が迫って来る時に聖書に記録された神様の約束の言葉を守らなければなりません．神様の約束をつかまなければなりません．まるでヤゴブが神様のみ使いをつかんで祝福のメッセージを受けるまで決死的にぶら下げられたようにしなければなりません．ヤゴブは自分のの前に近づいた大きい患難に対して苦心した中にいつのまにか日が暮れて闇が押し寄せました．その時誰がヤゴブを抱きしめました．ヤゴブはびっくりしたがまっすぐに神様のみ使いだと判断しました．するとヤゴブは返って神様のみ使いをつかんで祝福してくださるのを懇請しました．神様のみ使いがヤゴブをふるおうと思ったがヤゴブは決死的におかなかったです．神様のみ使いがヤゴブの環刀骨を打ったから違骨されました．それでも神様のみ使いをつかんで垂れると神様のみ使いが “あなたの名前をヤゴブとしなくてイスラエルと言いなさい．”それからまた祝福のメッセージを与えました．“イスラエル”と言うのは 神様と競って勝った者”という意味で人が神様を勝つことができないので “あなたと競って勝つ者がいない．”このことを暗示する名前でした．

彼らが戦争の日に退いた二番目の原因は，私どもがその律法遵行するのをことわったからだと言いました．エフライム子孫たちは神様の律法を重い荷物で思って負担で思いました．神様の律法は人をしばりつけるくさりではなくて担わなければならないおもい荷物でもないです．律法はその律法を行う者に向けて神様が責任を負うようにするものです．神様の法道はこれを遵行する者に安全と豊饒の保障になります．こういうので神様の律法をつらく思うとか忌避しようと思う人は愚かな人です．こんな人は戦争の日，試験と逼迫と苦難が近付く日に退いてしまいます．しかし神様の法を嬉しく力をつくして遵行する人は戦争の日に絶対に退かないで屈強に立って進むようになります．

エフライム子孫が戦争の日に退くようになった三番目の原因は，彼らがエホバの行った奇跡と彼らに見えた奇跡を忘れたからだと言いました．私たちは神様が行った奇跡と施した恵みを忘れてはいけないです．エフライム子孫たちは先日イスラエルがエジプトから解放されて荒野を通ってガナアン地に入って来るようになる過程で経験した神様の奇跡と施した恵みを忘却しました．エフライム子孫たちは神様が彼らに行ったこのような奇跡と施した恵みをすべて忘れて現実の難しさだけ眺めて恐ろしくて震えながら恨みました．そうするから戦争の日に逃げてしまいました．

“わが魂よ、何ゆえうなだれるのか。何ゆえわたしのうちに思いみだれるのか。神を待ち望め。わたしはなおわが助け、わが神なる主をほめたたえるであろう。わが魂はわたしのうちにうなだれる。それで、わたしはヨルダンの地から、またヘルモンから、ミザルの山からあなたを思い起す。”（詩篇，42:5,6) この詩はダビデが困境をどんなに対処したのかを言ってくれます．彼が１ヶ所に長居をすることもできなくてあちらこちらに追い回される中でも落望しないために神様を憶えました．先日神様がヨダン地とヘルモンとミサを山でともにして手伝ってくれたことを思い出しました．あまたある人々が教会に足を入れてから退いてしまいます．**もし子であれば、相続人でもある。神の相続人であって、キリストと栄光を共にするために苦難をも共にしている以上、キリストと共同の相続人なのである。（ローマ人への手紙，8 :17)** ということを有り難く思わないです．そうするから試験と患難と逼迫と争わなければならない時に退いてしまいます．“エフライム子孫”のように戦争の日に退く人が，皆さんの中には一人もいないように願いします．

試験と患難と逼迫は立派な機会です．神様を向けた信頼と忠誠を現わしたように見える機会です．神様の愛と権能を深く体験することができる機会です．他の聖徒たちに信仰の見本をかけることができる機会です．神様の約束に対する信頼と律法に対する従順そして神様が行った奇跡と施した恵みを思い出すことは聖徒たちが直面する試験と患難と逼迫を対処して行く最上の兵器と弓です．このような兵器と弓を積極的に使ってください．聖徒の皆さんは最上の兵器を使って試験と患難と逼迫の挑戦に大胆に応戦なさるように願いします．